

出張報告書

議員出張報告書綴

No. 11488344

下関市議会議長殿

令和6年11月11日

職氏名 議員 江村 卓三	用 務 中核市サミット 2024 in 秋田
期 間 令和6年10月31日(木)から 令和6年11月 1日(金)まで	出張先 秋田県秋田市

別紙のとおり

「中核市サミット 2024 i n 秋田」の報告書

創世下関 江村 卓三

日 時：令和6年10月31日（木）～11月1日（金）

場 所：秋田市（あきた芸術劇場ミハルス）

今回の中核市サミットは、“これからをつくる、これからを生きる”を大きなテーマとし、「再生可能エネルギーが創るまちの未来」「芸術文化が創るまちの未来」に焦点を置き、基調講演とパネルディスカッションが行われました。

基調講演では、洋上風力発電の先進地として地域資源を活用した再生エネルギー導入に取り組む秋田市の実情を基にした「洋上風力発電によるカーボンニュートラルと地域振興」についての講演でした。



（基調講演）



第2部では、私は「再生可能エネルギーが創るまちの未来」のパネルディスカッションに参加しましたが、2020年10月に政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすると、カーボンニュートラルを目指すことを宣言されていますので、どれだけの市においてどれだけの再生エネルギー関連事業が進められているか興味があり、このテーマの参加となりました。

事例発表は、尼崎市・下関市・秋田市の3市です。



(秋田市の風力発電)



最後にサミット宣言があり、その内容ですが、中核市は将来にわたって持続可能なまちづくりに向けて、長く受け継がれてきた文化や歴史といった地域固有の資源があるので、それに光を当ててまちの個性を磨き、未来を力強く生きていくことが求められていることをしめされました。そこで、今回のサミットテーマである「再生可能エネルギーが創るまちの未来」「芸術文化が創るまちの未来」に焦点を置き、パネルディスカッションにおいて議論され、次の通り全国の中核市が連携し取り組むことを宣言されました。

1. 世界的に気候変動対策の取組が急がれる中、中核市はゼロカーボンシティの実現とともに、エネルギーの地産地活を進め、新たな産業や雇用の創出など経済と環境の好循環を生み出すことにより、再生エネルギーが創るまちの未来を目指す。
2. 地域の特色を生かした芸術文化の振興が求められる中、中核市は地域の歴史や文化を生かした芸術文化活動の推進を通じて、地域資源を掘り下げ、市民とともにまちの魅力を再発見し、新しい文化や価値の創造に取り組むことにより、芸術文化が創るまちの未来を目指す。

以上が今回の宣言内容ですが、中核市は62市あり、全国における存在感と地方自治の理念の実現に向けた中核市の責任は、今後もより一層大きくなっていくとのこと。

今回の宣言にあっては、中核市はこれからの新しい社会づくり、そして、これからをともに生きぬいていくため、寛容でしなやかな感性を持つひとを育み、溢れる創造力でまちの個性と魅力を磨き上げ、心豊かで希望に満ちたくらしの未来を創っていくことを宣言されました。

今回の講演等をお聞きし、各市においてテーマに沿ったまちづくりをしっかりと認知され、創意工夫のうえで実施されていることが参考となりましたので、本市の事業においても再生エネルギーを生かしたことが出来ればと思います。